

第1回甲斐市総合教育会議議事録

- 1 日 時 令和5年8月22日(火)午後2時00分
- 2 場 所 甲斐市役所 新館3階 竜王北部公民館視聴覚教室
- 3 開 会 午後2時00分
- 4 出席者 保坂武市長 高鳥悟教育長
金子初男職務代理人 中込正久委員
米山祐希委員 小林啓子委員
- 5 傍聴人 なし
- 6 事務局 名取藤吾教育部長 酒井厚志経営戦略課長
宮本裕教育総務課長 樋川和之学校教育課長
金丸徹学校教育指導監 広瀬修政策戦略係長
小田切英規教育総務係長 内田優教育総務係員
- 7 市長あいさつ
- 8 議 題
(1) 令和5年度 未来に向けた地方創生連携事業(学官連携)について
(2) 甲斐市立小中学校におけるコミュニティ・スクール導入基本計画について
(3) その他
- 9 その他
- 10 閉 会 午後3時30分

○開 会

事務局 開会を宣する。

○市長あいさつ

市 長 本日は、ご苦勞様です。

お忙しい中、こうして時間にご参集いただき、誠にありがとうございます。第1回目の総合教育会議ということで、委員の皆様には長時間になろうかと思いますが、ご協力の程、よろしく願いいたします。

教育委員の皆様には、平素より本市の教育行政の推進、全般に渡りまして、ご指導いただき、また、市政の関係につきましてもご協力をいただいているところで、感謝を申し上げます。

この総合教育会議につきましては、教育委員の皆様と私どもが十分に意思の疎通を図り、また、地域の教育課題のあるべき姿を共有しながら、様々な調整・協議を進めていくために実施するものであります。

さて、本日の議題につきましては、「未来に向けた地方創生連携事業」と「甲斐市立小中学校におけるコミュニティ・スクール導入基本計画」となります。

「地方創生連携事業」につきましては、昨年度締結いたしました、日本航空学園との連携協定に基づいた、今年度の事業概要についてご説明をさせていただきます。

「コミュニティ・スクール導入基本計画」につきましては、現行の学校評議員制度に代わる、コミュニティ・スクールの導入に向けた計画についてご説明いたします。

限られた時間ではございますが、是非、活発なご論議をいただきますようお願い申し上げます。今後も「第2次創甲斐教育推進大綱」に掲げました「甲斐市で育ち、甲斐市を育てる人づくり」のため、ご尽力を賜りますようお願い申し上げたいと存じます。

甲斐市も教育委員会もいろいろと事業がございまして、市民の皆様からもご意見を頂いているところです。近年、体育館の改修工事が各学校でなされておりまして、屋根だけ替えるのかと思ったら、壁も全て剥

がして、タイルや窓も全て外して、骨組みだけにして、また新しく造るというようなことを行っております。結構大事です。また、敷島北小学校や今後計画がされております竜王南小学校で校舎を新しくするような方向になっており、大変です。

最近では、グラウンドにトイレがあるけれど、スポーツ少年団だけが使うのであれば学校は関係ないというような感じにも取られますが、子どもがグラウンドにいて、体育館の方のトイレを使ってもらったつもりでいたら、遠すぎて困るという市民のご意見をいただきました。確かにごもつともだと思いますが、和式のトイレが校庭にはあるようですが、今は洋式にするべきではないか、体育館まで行っている間に我慢できなかったということも敷島の方で言われてしまいました。大変です。

また、私どもも進めて参りました、双葉中学校が日本一の玄関、日本一の下駄箱ということで、甲斐市の中学校で率先して行ってきました。中学校でやっているのであれば、小学校でもやりましょうということになり、やっているうちに、今度は幼稚園もやるようになってきて、皆でやっています。ここ4・5年前には、甲斐市で教頭先生をやっていた先生が、山梨市の学校へ勤めることになり「異動先の学校で、玄関の下駄箱の入れ方を甲斐市にいたときのようにやりたいのですが、よいですか。」とわざわざ私に断ってきた先生がいました。私は「どうぞ、どうぞ。」と言いました。韮崎市と北杜市の市長さんたちからも、写真や紙芝居を私たちにも見せてくださいと言われ、5枚ずつぐらい渡したら、もうすでに、5・6年前ですが「結局うちのほうでもやっていますよ。」と言われました。おそらく甲斐市で勤めていた先生方が、地元へ帰ったときに、自分の学校で指導しているということではないかと思えます。そういう意味で、慣れてきてはいるのですが、県下へアピールする機会をまた作っていただいて、玄関で自分たちもそういう意識を持って、また家庭に戻っても、玄関ではきれいに下足を揃えるという習慣を甲斐市の子どもたちに身に付けてほしいと思います。

また、先日の日曜日に、敷島地内にあります後沢溜池で、敷島総合公園グラウンドのすぐ下の矢木羽湖と言われていますが、そちらの貯水

池の周辺のごみ拾いを毎年行っていたのですが、コロナの影響で4年ぶりに実施することになり、私たちも朝9時から貯水池を管理する県の耕地課と一緒に清掃作業をさせていただきました。そこで、大きな石に「蛍の小径」と刻んであり、見たら水もなく、枯草が周りにありまして、マジックで「いない」と書かれてしまっており、「蛍の小径」という意味で造ったものでしたので、消してきました。そういう時代なのですが、双葉西小学校でもかつて子どもたちが3年間、4年・5年・6年と蛍を飼い、米笠の水路へ蛍を放ち、蛍祭りを行っていました。先日、4年ぶりに蛍を放ち、200匹程放ったのですが、舞ったのはその半分程度でした。広報の裏表紙に出したもので、300人以上の子どもたちをはじめ、見学者が来てしまい、交通関係の苦情があったり、広報の写真が良すぎるといふ苦情もあつたりしました。蛍も再度甲斐市の中に棲むということは必要なことかということで、来年の春には、もっと蛍が舞うように努力をさせていただいております。

蛍が棲むということは、水もきれいだということなので、双葉西小学校で担当をしていた先生が、竜王小学校へ異動してきているということがわかったので、この秋から竜王小学校でも手伝ってもらい、子どもたちもまた釜無川も再生したいということで竜王北小学校の子どもたちが蛍に関わった歴史もあり、古い看板がまだ置いてありますが、そういった子どもたちにも時間をかけて繋がっていければよいかと思えます。今では、双葉西小学校の子どもたちが、二十歳前後になっており、勉強したり、社会人になっておりますので、当時の親御さん方が「伝えますよ。」と言ってくれたと聞いております。

ぜひ、本日も有意義な会議になればと思います。よろしく願いいたします。

○議 題

- (1) 令和5年度 未来に向けた地方創生連携事業（学官連携）について
市 長 担当から説明をお願いします。
事務局 (資料説明)

委員

ご説明いただきましたが、今年度も質の高い指導体制と充実した活動環境を備える日本航空学園と連携することで、スポーツや文化芸術活動に触れる機会、ドローン等の先進的なデジタル技術を体験する機会の創出により、質の高い技術指導を受けることや、体験を行うことができ、甲斐市の子どもたちの可能性をより引き出して、広げて、高め、未来につながる取り組みだと思えます。

そこでお聞きしたいのですが、昨年も事業を行って、もちろん成果があったと思いますが、前年度の事業の成果をお伺いしたいということと、ミュージカル公演は、昨年に続いて、今年も実施ということで、応募されている児童生徒の皆さんは、昨年もこの事業の指導を受けて、講演に出られたお子さんもいらっしゃるのか、ということをお伺いしたいと思えます。

事務局

はい、ご質問いただいた内容で、昨年の成果ということでございますが、まず昨年度実施したもの、例えば2ページの「3 事業概要」のところで説明させていただきますと、昨年はバスケットボールに変わって、サッカーを行いました。こちらにつきましては、日本代表でありました選手が指導にお見えいただきまして、その中で市内の中学生が一生懸命技術指導を受けたところでございます。また、吹奏楽につきましては、今年度も昨年度に引き続き行いますが、こちらにつきましても、体験した中学生につきましては、プロの指導等でいろいろと教わるがあったというような感想をいただいたところでございます。

次に(2)のミュージカルにつきましては、同じく昨年に引き続きのものでございますが、昨年度は、市内の参加者はどちらかと言うとあまり多くはなかったです。まだコロナ禍ということもあって、全体の参加者も少なかったのですが、小さい子たちが、一生懸命表現する姿というものは、素晴らしいものがあると、観た中で感じました。また、参加者も一生懸命やったことですので、達成感があったということは言っていたいております。昨年に引き続き、今年も参加するかというお話ですが、まだ、オーディションに合格した人の名簿をこちらにいただいているので、明確には分かりませんが、昨年参加した子は、来年もあ

ればぜひ参加したい、ということはおっしゃっていただきましたので参加していただけているものかと感じているところでございます。よろしくお願いいたします。

委員

やはり、学校教育の中で触れることができないような、高いレベルのものに触れて、啓発を受けるということは非常に大事だと思います。今年には特に、日本航空高校の男子のバスケットボールで日本一となっておりますので、そういう面では、サッカーではなく、ちょうどタイミング的によかったかと思っています。

そして、吹奏楽についても、先日竜王小学校の150周年の際、太鼓も来ましたよね。将来的に増やしていくということも考えていただきたいと思います。敷島北小学校は指導者がいなくて、以前困っていたのですが、今は少しいて、火曜日など教えていただいているということです。

よく文科省では、産学官と出てきますよね。産業界と学校と官と。ここはこの事業でよいと思うのですが、例えば先ほど、市長さんが言うように、手紙の教室がありました。他にも、お茶の先生もいる、書道の先生もいる、といろいろなところで生涯学習をしているグループがたくさんいて、それが子どもたちの興味に従って、例えば今ちょうど夏休みで編み物教室がありますよ、ということで興味のあることを学ぶ。そうするとお金もかからないし、親御さんが送迎すれば交通費もかからないです。日本航空学園は確かにレベルが高いかもしれませんが、日本航空学園だけでなく、もっと生涯学習を広げていくという意味では、お茶の先生は結構あちこちにいると思います。また書道の先生も結構いると思います。そういう文化協会の方と連絡を取り、産学官で、書道の先生は産業とは別かもしれませんが、ある程度子どもたちに参加するポイントを作っただけ。例えば、敷島地区には、茶道の協会があると思いますが、そこに夏休みに何日か行くなど、子どもにも、生涯学習の芽を作っただけということが必要だと思います。もっとレベルの高い日本航空学園も必要ですが、レベルの低いところもやっただけ、ということも考える必要があると思います。

創甲斐教育を今から発展させるときに、やはり生涯学習で来てもら

う方の後輩ができる、小さい子どもたちの方も芽が出る。そのようなことも将来的に考えていかないと、お金をかけなくてもできることを考えることも、また面白いかと思えます。

そして、各地域に必ずいろいろなものがありますから、そこに夏休み中か冬休み中かポイントで、何月何日に敷島地区では書道教室をやっていますよ、と学校で募集して、子どもたちに参加してもらおう。書道教室も、幼稚園に教えに行っているの、受け入れてくれると思います。そのようなことが、市で行っている創甲斐教育の生涯学習に繋がっていくのではないか、あるいはそのまま広がるのではないかと考えています。また考えてみてください。以上です。

委員

ご説明ありがとうございました。まず、アスリートでバスケットボールの交流会ですが、今年度は特に、ワールドカップの開催等もあり、盛り上がっていますので、そういった意味でも、非常に的を射た取り組みであると思えました。合わせて吹奏楽の発表会の方も、プロの演奏家による技術指導ですので、そういった意味でも、非常に先駆的な取り組みであるように思いました。また、今中学校の部活動の地域移行という部分もありますので、そういった意味合いでも、地域と連携した部活動の1つのあり方として、非常に先駆的な取り組みではないかと思えました。

一つお聞きしたいのですが、参加チームが県内8チームで、市内3チームとありますが、他の5チームはどのような地域からの参加があったのかということが、お分かりでしたら教えてください。

それから、ミュージカルについてですが、これについても創甲斐教育の一つの柱になっている「表現力を高める」という部分で、ミュージカルの公演で培った表現力をそれぞれの子どもたちが、また学校へ帰っているいろいろな活動の中で、そういった表現力が出てくると、市内の学校全体に少しずつ表現力という部分での広がりが期待できるのではないかと思えました。

ドローンの操縦体験については、実は双葉西小学校で、たまたま参加をさせていただきました。全校写真と言うと、記念事業であったのですが、私たちの時代は、セスナで航空写真を撮ったのですが、双葉西小学

校では、ドローンで撮影していきまして、その撮影の時に、見ていた子どもたちが歓声を上げていたことが、非常に印象に残っています。ドローンは農業などいろいろな部分で、今後期待できるドローンの活用について、時代を担う子どもたちの一つの体験となればと思いました。

そして「命の作文コンクール」についても、家庭の日の青少年を育む事業の募集事業の中に「支えよう 大切な いのち」というテーマが具体的に挙げられて、それについての取り組みをされているということについても、非常に意義があることではないかと思いました。以上です。

事務局

ありがとうございます。先ほど、バスケットボールの参加チームについてご質問をいただきました。これは、学校の部活単位ではなく、地域の各中学校が集まって、クラブチームという形で形成されたチームが5つほど参加しております。遠くは富士吉田市の子どもたちが参加しました。あとは、甲西というチームがありましたので、南アルプス市だと思います。全チームがどこのチームかということは把握しておりませんが、そのような形で参加されていまして。また、市内はここに表記している3チームですが、当初は敷島中学校の男子チームも参加予定だったのですが、大会に勝ち進んで、当日試合で出て来られないというような状況でございました。

先ほどのミュージカルの表現でしたり、ドローン、また「命の作文コンクール」については、進めてまいり、子どもたちにこのような事業を通して、表現であったり、命の大切さを分かっていただけのように、取り組んでまいりたいと思います。よろしく願いいたします。

委員

事業全般を見させていただき、この5月を過ぎてから子どもたちがいろいろな体験をできるようになってきて、コロナ禍の3年間で失われたものが本当に大きかったと実感しているところです。対面式のこういった体験や経験を、一時的に無くなっていたものを、元に戻すということだけではなく、積極的にプラスアルファの事業を用意していただいたということにすごくありがたいと思いました。

昨年度からということなので、おそらく昨年は、感染症対策も行いながらという中で、始めていただいたところを、今年も継続ということ

で、大変喜ばしく思っています。いろいろな分野の事業があるので、たくさんのお子さんが参加できるのではないかと思ったのですが、公平性を保って、たくさんのお子さんに参加してもらえるとよいと思いました。

また、先ほど他の委員さんからもお話があったところでバスケットボールのチームが市内3チームということですが、全部で何チームあったうちの3チームなのかということが分からなかったので、どのように募集をかけて選定されたのか、どのような声かけをされたのかということをお伺いできればと思います。

事務局

ありがとうございます。ご質問いただきました、バスケットボールの募集方法ですが、日本航空高校や関係者を通じて、広く県内に募集をかけたということになります。特に市内の中学校については、学校を通じて、参加のお願いをしているところでございます。

市長

私もスポーツの関係や吹奏楽を観に行きまして、日本航空学園のホールは、いろいろと素晴らしいバレエやミュージカルなどをやっていますが、昼間に行くと日差しが入ることはあまりよくないと思ひまして、以前しっかり日差しを遮るようにしなければいけないと言いましたら、理事長が気を使って「以前市長に言われたのですが、今日は大丈夫です。」と言われました。日本航空学園はホールの音響をよくしたりして、双葉ふれあい文化会館を使ってもらってもよいのですが、500人程度の収容で、日本航空学園のホールは椅子を並べると1,000人ほど入ってしまうということです。そのようなところなので吹奏楽の演奏を観に行ったとき、市長の挨拶をする際、音響がよくなったということもあり、マイクで歌を歌いながらステージへ登りました。「見上げてごらん夜の星を」と歌って出ていきました。そして「皆さんこんにちは。」と出ていったのですが、何日か経ってから理事長に「市長、歌がとてもよかったです。子どもたちは、あの歌を知らないようです。」と言われてしまいました。それはそうですよね。そこには子どもたちが来ていますから、次のときは曲を選ばなければいけないと思ひました。最後の3つの小学校・中学校・日本航空学園の子どもたちの演奏で、指揮者は東京から来た方でしたが、素晴らしかったようです。私は最後まで観られなかった

のですが、指揮者によるということでしょうか。練習はそれぞれで行ったと思いますが、非常によい発表会であったと聞きました。

委員

バスケットボールの事業についても、市外の地区の方が来るところがよいと思います。甲斐市だけということではなく、皆で一緒に頑張ろうということで、それがまた甲斐市へ市外の方に来てもらって、また広めてもらうということがよいですね。先ほどの市長さんの下駄箱の話もそうですが、そういうところがよいですね。広く広めていくところですか。そこは感心しました。よかったです。

市長

その他、ご意見ご質問ございますか。よろしいですか。

一同

なし。

(2) 甲斐市立小中学校におけるコミュニティ・スクール導入基本計画について

市長

担当から説明をお願いします。

事務局

(資料説明)

委員

本市のコミュニティ・スクール小中学校への導入推進についてですが、私が現職の時に、ちょうど学校評議員制度が導入されました。その折に、市教委からの設置要綱による指導のもと、評議員の依頼の形を整えて、学校への意見や環境整備の協力などお力を借りてきました。ですので、今回コミュニティ・スクールに対する認識の現状も様々ではありますが、既存の仕組みをベースとして示してあります、本市の学校運営協議会規則のもと、段階的に体制が構築され、充実していくことを目指していければと思います。また、課題も示されておりますが、市教委からの伴走支援・指導・助言が位置づけられていて、学校での取り組みの推進に寄与できるものと考えられます。やはりこのコミュニティ・スクールの導入は「甲斐市で育ち、甲斐市を育てる人づくり」という創甲斐教育の基本理念を具現化していく取り組みの1つでもあると思います。令和5年、今年度の全国学力・学習状況調査の甲斐市の結果の中において、地域への関心の高い児童生徒の平均正答率は高い傾向にあることや、地域学習や地域との関わりが効果的とあり、地域や社会を良くするために何をすべきかを考えることがあると回答した児童生徒の平均正答率も高い傾

向にあると結果の考察で示しております。家庭や地域における人との関わりが学力に影響を与えている様子も伺えます。やはり家庭・地域・学校の連携による取り組みの必要性を示していて、コミュニティ・スクールの導入を本市の全学校、双葉西小学校以外にも進めていくということは大事な取り組みではないかと思えます。

そこで教えていただきたいのですが、18 ページ、先ほども説明がございましたが、学校運営協議会コミュニティ・スクールの方で教職員の人事等に関して「教育委員会規則に定められた範囲において」とありますよね。個人の異動等、そういったことは、求めているとありますが、この教育委員会規則にどういうことが定められているのかということです。

もう一つは、19 ページに、甲斐市学校運営協議会規則の双葉西小学校の場合、一番下ですが、15 人を協議会委員として任命しており、内 4 人に委員報酬が発生しているということの意味がどういうことかという 2 点を教えてください。

事務局

ありがとうございます。本当に心強いご意見をいただきました。ありがとうございます。教育委員会規則のところですが、やはりその点、今 D 委員さんがおっしゃったところですが、個人的な部分というところが特段書かれておりまして、学校運営協議会として、職員の異動等に対して、教育委員会に意見を述べることができる、ということはあるのですが、やはり個人的な部分ということについては、退けるというような内容のことが含まれております。

そして、19 ページの双葉西小学校の場合、15 人を協議会委員として任命し、内 4 人が委員報酬を発生していると書かれておりますが、その他の方々は学校評議員と兼ねているということがございまして、学校評議員と兼ねている場合は、学校評議員として報酬が支払われておりますので、学校運営協議会としては支払ってはおりません。そのようなことで、4 人のみ、学校運営協議会委員として任命をしているということになっております。また、学校の校長等の職員も含まれておりますので、そちらについては報酬が発生しないということになります。

委員

世の中の流れで、学校評議員から学校運営協議会に移っていかなければいけないので、もちろんやっていかなければいけないことですので、特に問題ないと思います。やはり、家庭の孤立化や家庭の指導力の欠如がだんだん増えてきて、地域に頼らなければならないということが1番の基本であると思います。双葉西小学校の例もあるので、それを基にしてやっていくと思いますが、来年1年間かけて、学校評議員から学校運営協議会の人選までが、来年の仕事ですよ。そうすると、何が学校で必要かということを学校で考えていかなければならないですよ。人材が必要なのか、あるいは環境整備など、いろいろあるかと思います。それらを各学校が必要に応じてまとめておく。そうしなければ、どういう人材が必要なかがわからないかと思います。必要な仕事がないと、どのような人材が必要なかということがわからないので、それをまず、学校ではこういう人材や、こういう時にこのような地域の力が必要ですよということを用意しておかなければ、15人も選べないです。それがまず学校でやることだと思います。

もう一つは、コロナの制限がなくなってきているので、学校に来やすい、学校に地域の方を呼ぶということを先手を打っておかないといけないと思います。「さあ、すぐ来てください。」と言っても、なかなか来にくいと思います。昔、孫が三村小学校にいたときに、1年生の昔の遊びというものに行ったことがあるのですが、私は竹とんぼを作りました。そのような時に、おじいちゃん・おばあちゃんが必要です。学校で教える機会があります。女性でしたら、あやとりですとか、そういう機会を作り、来年からもそのようなことで、学校が地域の人を呼んでおくことで、再来年の人材の確保にも役立つようにしておく必要があります。早急にとっても大変だと思います。

同時に、学校は何を提供できるのかということです。地域で学校を助け、学校があることによって、地域も創生するということで、例えば、私の住んでいる地区は、村祭りがあり、敷島南小学校の吹奏楽部が来てくれました。学校でも地域に提供できることがたくさんあります。先ほど、市長さんがおっしゃったように、蛍もそうです。蛍クラブのように

しっかり担当がある学校があったり、生活科の授業で行い、それを地域に話すということもよいと思います。その学校の特色ある取り組みというものを学校で考えておかないと、学校運営協議会の人選の時に、1年間を使って、学校評議員さんとよく話し合いながら、地域で何ができるのか、地域に何が提供できるのか、例えば、こういうことを考えていますよ、ということをやっておかないと、急に人材を15人選ぶということは大変です。そういう見通しを来年度のために、学校でやってもらう必要があると思います。

1番よいことは、双葉西小学校があるということですね。双葉西小学校でも、どのような人材やどういう時期にどういった講師が必要かということが分かりますよね。それはどの学校にも言えますよね。先ほどの話に戻ってしまいますが、中学校では部活の地域移行ということもあります。普段から来てもらい、地域のいろいろな指導者を呼んでおくということも大事だと思います。

例えば昭和町の様子を見てみると、昭和町は小さいですね。中学校1校、小学校3校で、1つの学校にコーディネーターがいますよね。これを全学校でやるとなると、今でも多忙化で学校が悲鳴を上げているのに、1年間あるからということと、双葉西小学校があるからそれを見習って準備が出来るということもあるけれど、やはりコーディネーターをつけて、本当は中学校区に1人を設置し、全体を見てもらうことがよいかと思いますが、それは難しいと思いますので、教育委員会の中に1人か2人コーディネーターの方がいて、こういう時にはこの方がいます、ということを紹介したり、調整をしたり、そのようなことも考えておかないといけないと思います。

やはり、どのようなことでもお金はかかりますよね。コーディネーターを各学校に1人ずつを配置ということはお金がかかりますよね。双葉西小学校には1人いましたよね。16校あって、16人雇うということは難しいですね。やはり、教育委員会の中の部署に1人か2人、配置しておかないと、うまくは回らないと思います。すぐでなくてもよいと思いますが、そういう方向で、中学校区くらいで配置を検討していただ

きたいです。敷島・双葉は学校が少ないので、そのような形でよいと思いますが、竜王地区は、3中学校でというと、小学校の配分でいうと少し難しくなってしまいますね。そのようなことで、竜王地区なら竜王中学校でよいと思いますが、やはり、その地域をよく知っている方にコーディネートをお願いして、こういうときは、こういう方がいます、ということをしなないといけないと思います。1年間でおそらく学校評議員は、そのつもりで選んでいませんからね。長引いてしまいますから、人選のときには来年はこうなりますよ、ということを学校に伝え、学校でも覚悟を決めてもらって、双葉西小学校を見ながら考えてもらうことが必要だと思います。

私が昔、増富中学校で校長をしていた頃ですが、地域の方が来なければ運動会ができませんでした。運動会があっても、中学校は生徒が14人しかいませんでした。運動会を見る方が家庭だけではとても少ないので、村の方が皆来てくれました。コミュニティ・スクールの基の部分は過疎化で地域が協力的ではなくなってきたてしまい、子どもも少なくなってきたから、地域で育てるということが薄くなってきてしまったことで、このコミュニティ・スクールの話が出てきたと思います。そういった意味で教員の多忙化なんて言っていない時代でしたから、学校の先生方の得意なことで地域の父兄を募集して、フラワーデザインが好きという先生が教室を設けました。その他にもテニスが得意な先生がテニス教室をしたりしていました。私も何かやれと言われたのですが、ラグビーをやっても仕方がないので、スキー教室をやりました。

今の時代は、そのようなお願いを先生にはできないので、先ほど市長さんのおっしゃっていた、蛍を飼うでもよいですし、菊作りでもよいですね。生活科で菊作りをしたり、小学生が朝顔を育てたりしますよね。だいたい夏休みに持って帰りますよね。そういうことを老人クラブとタイアップして、水をたまに高齢者の方にやってもらうとか、そういうようなアイデアというか、その学校らしいことをやるとよいと思います。敷島南小学校は、川がそんなにないので、蛍を放つことは難しいですよ。それは各学校でそれなりに考えていくことを1年間かけて考え

なければいけませんよね。地域の力をもらう時に学校でも何か出さないといけないと思います。そこのところをよく学校に指導してもらいたいです。そうすれば、再来年が始まりですから、基は双葉西小学校があるので、そういうことがうまくいく秘訣ではないかと思います。

あとは、その講習の謝礼や保険のお金も考えておかなければいけませんよね。怪我をしてしまったときのことも、今から考えておく必要があると思います。これも考え方によっては、自分の学校らしいことを考えることは面白いかもしれないです。地域を活かしながらということですね。特に敷島北小学校は、おやじの会もあるので、そういうところも参考になるかもしれません。敷島南小学校は、結構市外から来た方が多く、私の子どももそうですが、昔の私の同級生は、子どもが地域にいません。孫ももちろんいません。敷島北小学校と比べると、地域性が違います。その学校、その学校で違うと思うので、やり方は全然違ってよいと思います。やはり、学校のアイデアが必要だと思います。以上です。

委員

私が双葉西小学校で平成 22 年に文科省からコミュニティ・スクールの研究指定をいただいたときに校長でおりましたので、コミュニティ・スクールについては、いろいろな思いがあるところです。当時、県下初ということで、国から指定を受けた時には、近隣の先進校の様子を見に行っていたのですが、温度差は当時まちまちで、2年の研究指定で研究加配が付きますので、人的なところで順繰りに指定を回している県もありましたし、逆に東京都のように、むしろ前向きにコミュニティ・スクールを進めているところもありました。

最初の研究指定のお話をいただいた時に、先生方といろいろな話をさせていただいたのですが、当時先生方が1番心配されたのは、3番目の「教職員の採用・任用について、教育委員会に意見を述べるができる」ということでした。例えば、東京都のようにかなり個別に任用や異動についての希望が出ているところもありましたので、そういったことについて、及んでくることを当初心配されていました。ただ、これについては、県の教育委員会の方とも確認をして、コミュニティ・スクールを受けますが、人事の個別の具申についてはしない方向でいきますと

いうことを確認させてもらいました。ですから、コミュニティ・スクールを運営するにあたって、人が必要なので加配をお願いしますという、そういう意味の具申はさせていただくことはしましたが、基本的に個別の具申はしない方向で、ということで確認させてもらい、先生方にも了解をいただいた経緯があります。

それから、今のご説明の中にありましたように、おそらく1番は、他の委員さんもおっしゃっていましたが、コーディネートをする人材の確保が大変なところかという気がします。双葉西小学校の場合は、あらかじめ、支援部会を作るという計画の基で進めていましたので、それに基づいてということありますが、今後も進めていく上では、学校評議員制度から、学校運営協議会制度へというところは比較的スムーズに行くと思います。人数のところがありましたように、学校評議員は6人以内で、学校運営協議会は15人以内ですから、9人の枠がありますので、教員を充てて、その他具体的にもう少し関わる人が必要だということはお出てくると思います。

例えば、支援部会のリーダーとなっているような方、学習支援部会や環境整備部会などの部会長をしているような方が当然学校運営協議会のほうにも入ってきますので、そういった意味で、学校評議員も学校支援をしていただく部会の方に、少しずつ入っていただくような形で、学校評議員制度から学校運営協議会制度への移行は可能かと思います。ただ、支援部会をどのように作っていくかについては、あまり無理がないようにしていく方がよいかと思います。例えば、今は学習支援で、どの学校でも読み聞かせや、地域の学習など、他の委員さんがおっしゃっていたように、昔の遊びや工作、家庭科などで地域の方に入っている学校が多いと思います。ですから、そういった意味で、学習支援の方々を名簿として、きちんと整理をして、学習支援部会として、その中のどなたかに、頭に立っていただいて、その辺を調整していただくような方を作っていくことがよいのかと思います。環境整備や安全対策等、他の部会も今ある学校の体制の中で、必要な部会を、少しずつ、おやじの会というお話もありましたが、そういったところをうまく取り込

んでいながら、支援部会を整備していくことがよいのではないかと思います。

それと、それをコーディネートする方がいないと、先生方に負担がかかってくるので、例えば双葉西小学校の場合は、国の指定で研究加配が1人配置されました。国の指定が終わったら、今度は事務職の加配を頂きました。そのあとは、市のほうでコーディネーターの配置をいただきました。そういう流れできていますので、先ほど他の委員さんがおっしゃったように、例えば、双葉や敷島は中学校1校ずつですので、地域をそこでまとめいくことは、比較的容易かと思えます。竜王の場合は、地域をまたがっているので、その辺が調整は難しいと思えますが、どなたかそのようなコーディネーターなりどこか市として、別の場所で、それを代行していくような、取りまとめていくような部分を作ってもよいかと思えますが、そういったところで整理をしていく方がよいのかと思えます。

それから、学校へ入っていただく地域の方々の横の繋がりというか、年に1回、双葉西小学校でも関係の方々全部を集めて、話し合いの場を設けていますが、そういう横のつながりも作っておかないと、学校ですから実際に指導していく中で、いろいろな子どもや学級や学校の様子を目にする、そういう個人情報を外へは出さないということでしたり、お互いに横の信頼関係を作っておかないと、また学校全体としての統一というか、そういったところの運用も、いずれは必要なかと思えます。結論的に思い出すのは、1つは学校評議員制度を学校運営協議会制度に向けていくということは、比較的こういった流れでいくのかと思えました。その先の学校支援については、ボランティアの方々の人選であったり、調整であったりは、どなたか携わっていただけの方で進めていかないと大変なのではないかと感じています。ですから、各学校の実態に応じて、無理をしないような流れで行ければよいのかと思えます。以上です。

委員

コーディネートをする人材がいないと、やはり学校の職員も非常に負担になるというお話がありますが、今年度については、そういう人材に

については、各学校にどのような支援を考えていらっしゃるのですか。

事務局

ありがとうございます。先ほど各委員さん方からも「無理をしないで入れていくようにすべきですね。」というようなお話もいただきました。委員さんからも教育委員会として伴走支援をしっかりとしていくように、というようなご意見もいただいた中で、教育委員会として今考えていますのは、まずは今ある組織を使っていこうということです。その中で、家庭科の授業であったり、図工の授業であったりというところへ入ってきていただく。まず、あまり手を広げすぎるとコーディネーターがしっかり必要になってくるのですが、今現在ある組織、あるいは今現在いる保護者、今現在ご協力をいただいている地域の方々であれば、学年主任、あるいは教務主任で十分対応が可能だと考えております。ゆくゆくは広げていくと考えた時には、そういったコーディネート役という方が必要になってくると思いますが、現状の部分では、学年主任・教務主任・教頭等で対応が可能であると考えております。

委員

コミュニティ・スクールの導入については他の委員さんもおっしゃっていたとおり、「甲斐市で育ち、甲斐市を育てる人づくり」を本当に具現化する仕組みだと思しますので、ぜひ導入を進めていただきたいということと、他の委員さんもおっしゃっていたとおり、家庭の教育力の低下というようなことも最近よく言われていますが、全体的な低下というよりも本当に二極化してしまっているような現状があると思います。周りの方のお話を聞いたり、学校訪問に行かせていただいても、本当に感じるところで、やはりどのような家庭環境のお子さんも、支援が必要な特別な特性を持ったお子さんも、どんな子も来ているところが学校なので、その学校を地域の方が地域のお子さんを見守って育てていくということができるといことで、コミュニティ・スクールは本当に取り入れるべき仕組みだと思しますので、進めていただきたいと思っています。

課題も、今先生方がおっしゃってくださったような課題がたくさんあると思うのですが、双葉西小学校は、結構保護者がかつてその児童でした、というような方のご家庭が多いイメージがあります。やはり、地域性で導入がうまくいったということもあるのかと思うので、地域に

よっては、本当に進めることが難しいところもあると思います。ですので、一律に期限を切るのではなく、各地域の各学校の現状に合わせて、相談やサポートを教育委員会が主導して行なっていくという形で進めてもらえたらと思います。私自身も、双葉西小学校の学校運営協議会に入っていたことがあるので、思うことがあるのですが、保護者の方は、コミュニティ・スクールと普通の学校の違いを、おそらく意識されていないので分からないと思います。ですので、その学校に入った時点から、学校に関わることができるということがわかったり、現役世代だと、学校評議員や学校運営協議会に入ると、仕事のお休みをとらなければいけないことが現実問題としてあって、関わるということが結構難しい部分もあると思うのですが、やはり保護者として当事者意識を持って、このような会があるということでしたり、コミュニティ・スクールはこういうものですよ、ということをもっと丁寧に説明をして周知していくということも大切かと思います。

分かりやすいということと、ポジティブに捉えてもらうということが大切かと思います。やはり学校に関わらなければいけないということを面倒くさいと思われる方もいらっしゃると思うので、そうではなくて、逆に、嬉しく思う保護者の方もたくさんいらっしゃると思いますし、そういう方たちをうまく巻き込めるような周知や説明が必要かと思います。このようなことを重点的に考えて進めていただけたらと思います。

市長

ありがとうございます。多くのご意見、またご指導をいただき、ありがとうございます。課題が非常にありますが、学校運営協議会は令和6年度から移行するということですよ。ですので、今までの学校評議員の皆様にご協力いただきながら、学校運営協議会が令和6年度から発足で、内容も今までとあまり変わらないような、変化球を投げて携わっていただければ、学校運営協議会委員になられた方も入りやすいかと思います。各学校の特色ということで、話を聞いていて勉強になったのですが、例えば、通学路の合同点検を具体的に昨年かなり教育委員会でやっけていまして、PTAや父兄の方から要望があったところを中心に報告をいただき、その点検をお願いすると、写真まで撮っ

てきて、どのように改良したらよいかということを含めてきてやっているので、そういうことを学校運営協議会でも話してもらおうとよいと思います。PTAの方たちには、学校の中の子どもたちとの接点、諸行事に協力してもらい、対外的なことは、こちらの学校運営協議会の方たちにテーマのようなものを与えてみるとよいと思います。おそらくご年配の方たちが、学校運営協議会に多く入っていると思います。毎年毎年通学路の点検をすると、同じような内容があるので、具体的にそれを解決してあげなければ、前に進めないと思ってしまって。点検するのはPTAではなく、もう少し具体的に「ここはどうしても必要だ。」というところは、学校運営協議会の方たちに話してもらい、実現させる。例えば、竜王中学校の正門が裏にもあったり、西と東にもあるのですが、東側が正門で、県道から入って行き、テニスコートの北側に進入路があるのですが、車1台が通ると他の車は出て来るところで、県道で止まっていると、県道で邪魔になるということで、1年半かかったのですが、ようやく地権者に協力していただき、工事が始められるという状況です。今度は2台すれ違えるように5メートルの道路にしてもらえるということになりまして、市で土地を買わなければなりません、そのような具体性を学校運営協議会のようなところでやっていただくと、委員の皆様も「私たちが声をかけたから道が広がった」ということになるかもしれません。

蛍も梅の里か双葉でやっていて、この辺も聞くと、蛍があちこちにいたのですが、いなくなってしまったということで、蛍は自然発生はしているのですが、聞いていると、自分で生き抜いて釜無川の信玄堤のところは、このあいだ1匹メスがいたとのこと。そのメスがいたから、また川へ戻してきたとのことですが、1匹だけ離したって、オスがいないと増えないですね。だから、そのような蛍の生態を分かってやらなければ、やはり誰か学校運営協議会の委員の方にも参加してもらったりして、敷島北小学校にはおやじの会があり、毎年お赤飯をもらうのですが、米を作ったり、餅をついたりなど、していただいているのですが、方向を変えてご協力いただけるとよいと思います。

そうしたら、先日お祭りでトイレが昔の和式トイレだと父兄から言われまして、聞いたら、トイレは体育館の方を新しくして、みんな洋式にしているから、そちらを使うという約束でスポーツ少年団もやっていると事務方は言うのです。だけど一番遠いのは、よく見れば敷島北小学校です。若い奥さんが、子どもが体育館のトイレまで間に合わないと話していました。そういうことをおやじの会の方にも関心をもってもらえれば、やりがいもありますよね。

敷島中学校のアーチェリーも、先日開発者に協力してもらい開発がありました。アーチェリー会場のトイレに行ってみたら、トイレが工事現場のトイレというわけです。あれでは部員が一番いるようですがかわいそうですよね。見るところも着替えるところもテントを張っているようですが、自転車置き場もないですし、そういうことを学校運営協議会の中で言ってくるとよいわけですね。

小学校で1／2成人式をやっていますが、そういうことにも学校で、自分のお父さん・お母さんだけでなく、おじいさん・おばあさんも来てくださいということをするとか、老人クラブへ呼びかけて、ご招待したり、ご案内するとか、各学校で特色のあることをやってもらえれば、学校運営協議会委員さんも張り合いになるかと思しますので、一つ、学校区に何かを与えてあげて、実現性、市へ声をかけてください、こういうことをすればよいかと思えます。特色のあることを考えてみてください。

その他、ご意見ご質問ございますか。よろしいですか。

一同 なし。

市長 また、折を見て、コミュニティ・スクール導入につきましても、併せて教育委員会へ申し付けください。

(3) その他

市長 コミュニティ・スクール導入基本計画の最後のページの資料の内容を教えてくださいませんか。この予定で進めているということですか。

事務局 はい。各学校長へは示させていただいて、この方向で今進めさせていただいているところであります。

市長

先ほどお話しさせていただいたように、学校運営協議会になりますと、学校評議員の今までの活動に何か色を付けて、特色のある学校にするとよいと思います。双葉西小学校の蛍のことですが、前に4・5・6年生が招待をしてくれて、蛍祭りに行きました。そうしたら、その先生は竜王小学校に今いるということで、聞いていただいたら、お父さん・お母さんが協力しますよ、と言ってきて、そういう人が手伝わないと蛍は飼えないのです。だから、信玄堤のところは、そういうことを勉強したので、自然に発生するようにしていくとよいかと思います。そうすると、竜王北小学校か竜王小学校にお願いをして、聞くところによると、秋に2学期になって、少し気候が涼しくなった頃がよいそうです。金魚鉢の水温が30度以上になると亡くなってしまうそうです。30度以下で今飼育していますが、室内で涼しいところにいけば、30度以下の水でいられると思います。

委員

私の住んでいる地域にもいたのですが、溝渠になってしまっていてなくなってしまいました。

市長

ミヤイリ貝がないといけないようです。蛍がミヤイリ貝を食べるそうです。地方病にならないように、昭和町で蛍を飼い、ミヤイリ貝を食べさせたという時代がありましたが、今度はミヤイリ貝が日本住血吸虫ということで、撲滅するために溝渠としたという経緯があります。それで蛍も一緒にダメになってしまいました。

だけど、蛍がまだ生き延びているので、雑食性で何でも食べるらしいのですが、カワニナという貝をミヤイリ貝とはまったく別で勉強したら、ミヤイリ貝は今まったくいないようです。広島の方の学者が日本住血吸虫はミヤイリ貝にいると発見したということです。だから、ミヤイリ貝を撲滅するためには、蛍を飼ったほうがよいと言いき、蛍がいたそうです。そのミヤイリという先生の名前をとって、ミヤイリ貝になったということです。学者のような話しになってしまいました。

いろいろと勉強をさせていただき、ありがとうございます。

では、よろしいでしょうか。

皆様、貴重なご意見を出していただきまして、参考にさせていただきます。

きながら新たな方向に向けて、甲斐市が先進的にコミュニティ・スクールの導入に進んでいければと思います。

以上で議事の進行を終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。

○その他

事務局 市長ありがとうございました。教育委員の皆様から何かございますでしょうか。

市長 敷島北小学校には太鼓がありました。太鼓を教えられる方が敷島北小学校の方にいないか、おやじの会の方に聞いてもらえませんか。

委員 前に見つけてきたときは、南アルプス市の方でした。

市長 今も指導者がいなければ、太鼓ができるような学校の先生はいませんか。よく子どもたちは、太鼓を毎年やっていました。夏祭りにやったりしていました。

委員 太鼓はとても特殊です。吹奏楽を教えられる先生も少なく困っています。

市長 竜王北中学校のマーチングは素晴らしかったです。当時衣装を買ってあげました。そのとき白根中学校から衣装を借りて大会に出場していたのですが、白根中学校でやることになったから、借りれなくなってしまい、竜王北中学校から買ってほしいという要望があったので、どういものがよいか生徒に選んでもらい、買いました。それで体育館でやっていたのですが、狭いから前半と後半で分けて練習をしていて、マーチングをやるには広い体育館が必要なのですね。それで、ヴァンフォーレの応援で行ってくださいとお願いしたことがありました。今はマーチングをやっていないのですが、そういうことを教える先生がいるのですね。

委員 いるのですが、少ないです。

市長 吹いたり歩いたりしていてすごいと思っていました。もったいないと思っています。中学生で勉強させてもらって羨ましいです。

委員 地域の人材がそういうところへ行かないと先生任せではできないということです。

市 長
事務局

先生を見つけてこなければダメですね。ありがとうございました。
ありがとうございました。

今後の予定についてご説明させていただきます。第2回総合教育会議につきましては、来年2月頃を予定しておりますので、出席の程よろしく願いいたします。以上となります。

○閉 会
事務局

閉会を宣する。

閉会時間 午後3時30分